

坂戸市立南小学校 笑顔・感動・花いっぱい

夢道場・南小だより

【学校教育目標】

- やさしく (徳)
- かしこく (知)
- たくましく (体)

学校経営方針 「明るく 元気に 爽やかに すべての対応を親身になって丁寧に」

令和5年12月6日
第27号 文責 鈴木博貴

【世界人権デー(12月10日)・人権週間】『みんなちがって、みんないい』

20世紀には、世界を巻き込んだ大戦が二度も起こり、特に第二次世界大戦中においては、特定の人種の迫害、大量虐殺など、人権侵害、人権抑圧が横行しました。このような経験から、人権問題は国際社会全体に関わる問題であり、人権の保障が世界平和の基礎であるという考え方が主流になってきました。そこで1948年(昭和23年)12月10日、国際連合の総会は、「全ての人民と全ての国とが達成すべき共通の基準」として、全会一致で「世界人権宣言」を採択し、この日を「世界人権デー」と決めました。「人間は、人種、性別、言語、または宗教などによって差別されてはならない。全ての人間の権利と基本的自由は尊ばれ、守られなければならない」という趣旨が、世界人権宣言の前文と30か条の条文の中に一貫して述べられています。大切なこの日にちなみ、南小では人権学習月間を実施し、子供たちと一緒に考える機会としています。



【お話朝会より】南っ子みなさん、おはようございます。11月の『今月の歌』は、『小さな世界』でした。皆さんの手話をつけた歌声はとても素敵でした。校長先生もこの歌が大好きです。「世界はせまい。世界は同じ。世界は丸い。ただ一つ」。とても素敵な歌詞ですよ。「世界がこの様であつたらいいな」。さて、皆さんは今の生活が「当たり前」のように感じてしまっていますが、世界を広く見渡して観るとどうでしょうか。「世界は同じ」ですか。実は、こんなデータがあります。世界では、6人に1人の子供たちがものすごく貧しくて、食べ物や水に困っています。住む家もない子供たちもいます。また、皆さんと同じ小学生くらいの子供たちが、生活のために大人と同じように働かなければならない。学校で勉強するなど夢のようなことだという国もあります。病気にかかったり、ケガをしたりしても直ぐには病院でお医者さんに見てもらえない。お医者さんの数も少ない。校長先生は、若いころ自分でお金を貯めて、様々な国に出かけて、そんな子供たちを実際に見てきたことがあります。でも、子供たちは、夢をもって一生懸命に生きようと頑張っていました。さて、12月10日は、何の日でしょうか。12月10日は、「世界人権デー」です。世界人権デーとは、今からおよそ70年前に、世界の全ての人々が幸せに暮らせるようにと宣言した「世界人権宣言」が出された日なのです。日本では、12月4日から10日まで「人権週間」と定められています。つまり、日本も含めて世界中で「人権」について一緒に考えようという日なのです。

さあ、「人権」とは何でしょうか。「人権とは、一人一人が生まれたときからもっている自分らしく生きる権利のこと」です。つまり、「自分らしく生きていいですよ」とされているのです。なんだか当たり前のことのようにですが、この「自分らしく」という当たり前が、世界になかったのです。皆、一人一人が違うように、全部が同じ人間なんていませんよね。世界には、肌の色が黒い人、白い人、瞳が茶色い人、青い人、話す言葉も国によって違います。肌の色や国によって差別されることが昔も今もあります。みんな同じ一人の人間なのに、そんなことで差別されるのは、どうでしょうか。みんなが同じ一人の人間として、自分らしく生きてよい世界になったら、素敵な世界になりますよね。皆さんも、身近な「人権」を脅かすものとして、「いじめ」について学習していますね。そんな人権デー、人権週間、みなさんは今から言うことを考えて過ごしてみてください。【下記】得意なことや苦手なことも、人それぞれです。それぞれの得意なことを生かし、皆一人一人が優しい気持ちをもって助け合えたら素敵ですよ。「みんなちがって、みんないい」。それでは最後に金子みすゞさんの詩『私と小鳥と鈴と』を紹介します。

今日も、お話をしっかり聴いてくれてありがとう。終わります。

- 自分の好きなところは、どんなところか考えてみましょう。
- 友達の素敵なおところは、どんなところか考えてみましょう。
- 自分と友達のちがうところは、どんなところでしょう。

私と小鳥と鈴と
私が両手をひろげても、
お空はちっとも飛べないが、
飛べる小鳥は私のように、
地面を速くは走れない。
私からだをゆすっても、
きれいな音は出ないけど、
あの鳴る鈴は私のように、
たくさんな唄は知らないよ。
鈴と、小鳥と、それから私、
みんなちがって、みんないい。



「家庭用いじめ発見チェックシート」より

1 起床から登校前

- 布団からなかなか出てこられず、具合が悪そうである
- けたるような、疲れた表情である
- いつもと違って朝食を食べようとしない
- ぼんやりしたり、ふさぎこんでいたりする
- 学校に行くのを渋り、登校班の集合場所に行きたがらない

2 登校中

- 友達の荷物を持たされている
- 一人で登校するようになったり、遠回りしたりして登校してくる
- 途中で家に戻ってくる

3 帰宅時

- 理由の分からない服の汚れや破れ、ボタンのほつれがある
- あざや擦り傷があってもその理由を言わない
- 自分の部屋に駆け込み、なかなか出てこない
- いつもより帰宅が遅い
- 自転車や持ち物等が壊されている
- 学校の話をしなくなり、外出したくない
- プリントが破れている、道具や持ち物に落書きがある

4 夕食から就寝まで

- 食欲がなくなる
- 特定の友達に対する言葉遣いが不自然に丁寧である
- 友達の話をしなくなり、いつも遊んでいる友達と遊ばない
- お金の使い方が荒くなったり、無断で持ち出したりする
- 部屋にある持ち物や学用品がなくなっていく
- 買い与えた覚えのない品物をもっている
- メールはこそこそ見る、鳴っている携帯電話に出たがらない
- 部屋に閉じこもりがちで、好きな趣味にも興じなくなる
- 家族の者と話をしなくなる
- いじめの話をするとう強く否定する
- 弟や妹をいじめるなど、急に乱暴になり情緒不安定になる
- 疲れた様子であったり、なかなか寝つけなかったりしている
- 普段より暗かったり、逆に明るく演じたりする感じがする

* 気になることがありましたら、学校にご相談ください。

環境美化委員会 & 学校応援団『人権の花』

「相手の立場を考へて行動する心や思いやりの心、生命の尊さ、感謝の気持ちを育てる等、人権尊重の意識を子供たちに身に付けさせること」を目的に、今年度も法務省人権擁護委員会から『人権の花』(パンジー苗とナチュレ苗、各140ポット)が贈られました。秋晴れの中、学校応援団の皆様と環境美化委員の児童たちが一生懸命に花植えを行ってくれました。『人権の花』の意義を大切にしながら、今後も「優しさや思いやりの溢れる温かい学校づくり」を推進していきます。

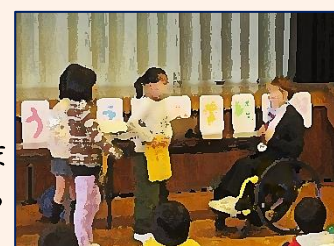


【夢道場・南小『ほっとニュース』】

4年生・総合『ともに生きる/福祉体験学習』

4年生は、総合的な学習の時間で『ともに生きる』をテーマに『福祉』についての学習を進めてきました。

既に「高齢者疑似体験」や「点字」の体験学習を行いました。今回は「車イス」「アイマスク・白杖体験」を行いました。体育館、廊下や階段を使い疑似体験することで、足や目の不自由な方々の気持ちを理解し、介助する側の大切な心得などを学習しました。さらに、福祉教育講演会として保護者の皆様にもご参会いただき、今年度も東京パラリンピック2020の競泳女子自由形で日本代表として活躍された小池さくら選手(大東文化大学4年生)をお招きしました。脊髄硬膜外血腫のため下半身麻痺となり、ずっと車イスで生活をされてきた小池選手が、どのように障がいに打ち克って来たかを、周囲の支え等の体験談を交えて講演してください。4年生たちは真剣にお話を聞いていました。講演後には、たくさんの子供たちの質問に丁寧に答えてくださいました。



『福祉』とは、『**⑤**だんの **④**らしの **③**あわせ』と言われています。4年生たちは、ノーマライゼーションやバリアフリーの大切さとともに、子供や大人、高齢者や障がいのある人など、「お互いに思いやりの気持ちをもって、共に支え合って生きていくことが大切であること」をしっかりと学んでいました。

3・6年『ピースキャラバン・平和資料館がやってきた!』

国語の授業では、3年生で『ちいちゃんのかげおくり』、4年生で『一つの花』を学習します。どちらも戦時中の題材で、戦争の悲惨さや平和の大切さを伝えるものです。戦時中の生活実感が掴めない子供たちが学習内容を深めるため、埼玉県立平和資料館の職員の方による出前授業『ピースキャラバン』を実施しました。体育館が資料館に早変わり。子供たちは、職員の方の講義を真剣に聴くとともに、戦時中の沢山の資料に興味深く見学しました。戦争は、人権侵害の最たるもの。「平和の大切さと、平和を守るために、私たちができることは何だろう」との問いに全員が真剣に考えていました。

